

平成19年度 病害虫発生予察情報

発生予報第4号（6月）

平成19年6月4日
島 根 県

予報の概要

区 分	農作物名	病害虫名	予想発生量	
普通作物	イネ	葉いもち	平年並～やや少ない	
		紋枯病	やや少ない	
		縞葉枯病	やや少ない～少ない	
		萎縮病	やや少ない	
		黄化萎縮病	やや少ない	
		ヒメトビウンカ	少ない	
		ニカメイチュウ	少ない	
		ツマグロヨコバイ	平年並	
		イネドロオイムシ	少ない	
		イネミズゾウムシ	やや少ない	
果樹	ナシ	黒斑病	少ない	
		黒星病	平年並	
		シンクイムシ類	やや多い	
		ハマキムシ類	やや多い	
		ハダニ類	少ない	
		アブラムシ類	やや少ない	
		カキ	円星落葉病	やや少ない
			カキミガ	平年並
		果樹全般	カメムシ類	少ない

中国地方1か月予報（6月2日～7月1日・広島地方気象台6月1日発表）

< 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%） >

気温	40%	30%	30%
降水量	30%	40%	30%
日照時間	30%	40%	30%
	低い（少ない）	平年並	高い（多い）

A. 普通作物

1) イネ

(1) 葉いもち

予報内容

発生地方

県下全域

発生時期

平年並～やや遅い

発生量

平年並～やや少ない

予報の根拠

①現在、本田での発生は認めていない。

②常習発生地では育苗箱施薬の実施率が高い。

③6月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方

県下全域

発生時期

平年並～やや遅い

発生量

やや少ない

予報の根拠

- ①前年の発生量から、越冬菌量はやや少ないと考えられる。
- ②常習発生地では育苗箱施薬が普及しつつある。
- ③6月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) 縮葉枯病

予報内容

発生地方 常習発生地
発生量 やや少ない～少ない

予報の根拠

- ①媒介虫のヒメトビウンカの発生量は少ないと予想される。
- ②近年、本病の発生はやや少なく、保毒虫率はやや低いと考えられる。

(4) 萎縮病

予報内容

発生地方 常習発生地
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①媒介虫のツマグロヨコバイの発生量は平年並みと予想される。
- ②近年、本病の発生は極めて少なく、保毒虫率は低いと考えられる。

(5) 黄化萎縮病

予報内容

発生地方 常習発生地
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①前年の発生量から、菌密度は低いと考えられる。
- ②6月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(6) ヒメトビウンカ

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 少ない

予報の根拠

- ①5月下旬の巡回調査では、捕獲数は0頭（平年0.03頭/50株）、発生圃場率は0%（平年2.7%）で発生量は平年に比べて少ない。
- ②6月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(7) ニカメイチュウ（第1世代）

予報内容

発生地方 県下全域
発生時期 平年並
発生量 少ない

予報の根拠

- ①予察灯、フェロモントラップにおける越冬世代成虫の誘殺量は平年に比べて少ない。
- ②6月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(8) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ①予察灯における誘殺量はほぼ平年並みである。
- ②5月下旬の巡回調査では、捕獲数は0.1頭（平年0.08頭/50株）、発生圃場率は9.7%（平年6.2%）で発生量は平年並みである。
- ③6月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(9) イネドロオイムシ

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 少ない

予報の根拠

- ①5月下旬の巡回調査では、被害圃場率は0%（平年5.6%）で発生量は平年に比べて少ない。
- ②6月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(10) イネミズゾウムシ

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 予察灯における越冬世代成虫の誘殺量はほぼ平年並みである。
- ② 5月下旬の巡回調査では、発生圃場率は36%（平年75%）、被害株率は21.4%（平年37.8%）、発生圃場の被害度は10.3（平年17.6）で平年に比べてやや低い。
- ③ 6月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 ナシ（二十世紀）栽培地帯
発生量 少ない

予報の根拠

- ① 5月28日の巡回調査では、発病葉率0.4%（平年の発病葉率3.8%）であり、発生量は少ない。
- ② 6月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 5月28日の巡回調査では、発病葉率0.00%（平年の発病葉率0.02%）であり、発生量は平年並みである。
- ② 6月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県下全域
発生時期 やや早い
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① フェロモントラップ（安来市、出雲市）でのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺盛期はやや早く、誘殺数はやや多い。
- ② 6月の気象は本種の発生を抑制する要因とはならない。

(4) ハマキムシ類

予報内容

発生地方 県下全域
発生時期 やや早い
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 県予察圃場（出雲市）のフェロモントラップにおけるハマキムシ類雄成虫の誘殺盛期はやや早く、誘殺数はやや多い。
- ② 6月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

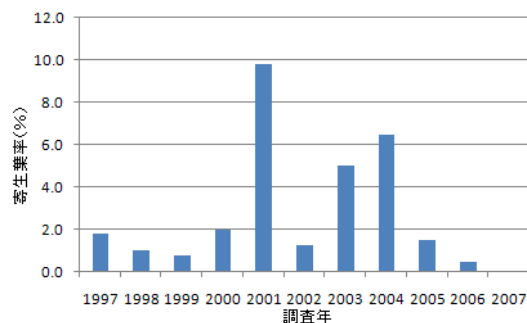
(5) ハダニ類

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 少ない

予報の根拠

- ① 5月下旬の発生量は寄生葉率0%（平年値3.0%）、寄生虫数0.0頭（平年値6.0頭）と平年に比べて少ない（グラフ参照）。
- ② 6月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。



ナシの類におけるハダニ類の寄生率の推移

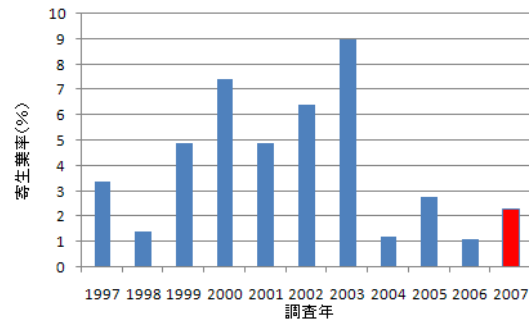
(6) アブラムシ類

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 5月下旬の寄生新梢率5.7%
(平年値11.3%)、寄生程度2.3
(平年値4.5)と平年に比べてやや少ない(グラフ参照)。
- ② 黄色水盤への有翅虫飛来数は平年に比べてやや少ない。
- ③ 6月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。



ナシの類におけるアブラムシ類の寄生度の推移

2) カキ

(1) 円星落葉病

予報内容

発生地方 県下全域
発生量(感染量) やや少ない

予報の根拠

- ① 前年の発生は平年と比べてやや少なく、伝染源量も平年と比べてやや少ないと考えられる。
- ② 6月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) カキミガ(第1世代)

予報内容

発生地方 県下全域
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 前年の第2世代幼虫による被害は平年並みであり、越冬量は平年並みと考えられる。
- ② 6月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

3) 果樹全般

(1) カメムシ類

予報内容

発生地方 県下全域(特にナシ無袋、カキ栽培地帯)
発生量 少ない

予報の根拠

- ① 5月4半旬から6半旬までの予察灯でのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシの総誘殺数は6頭(平年値74.4頭)で平年に比べて少ない。
- ② 6月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

農薬の安全使用の徹底を!

- ・ 農薬の使用基準(適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数)を遵守する。
- ・ 防除履歴(使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量)を記帳する。
- ・ 農薬散布時には周辺作物に飛散(ドリフト)しないように注意する。
- ・ 水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・ 有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・ 散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・ 病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

島根県病害虫防除所

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ <http://www.jppn.ne.jp/shimane/>